

すべての児童虐待被害者が切り捨てられない社会の実現  
～具体的支援内容の検討及び要望に向けて～

# 「社会的養護未経験児童虐待被害者の実態調査アンケート」 統計データ分析結果

2023年11月19日

児童虐待被害者支援団体

一般社団法人Onara



一般社団法人  
Onara

# 目次

- 1 調査概要
- 2 調査結果（基礎データ）
- 3 調査分析
- 4 具体的な提案や要望
- 5 主な意見（自由記述・抜粋）

# 調查概要

# 調査概要

ねらい

社会的養護未経験児童虐待被害者の未成年期及び成人後の実態について、インターネット上のアンケートを活用して広く当事者の声を集め、当該当事者の未成年期及び成人後の現状と課題、要望を把握し、国や行政にその実態を報告すると共に、当事者への充実した支援を求める目的で実施した。

実施期間（22日間）

2023年9月9日（土）～9月30日（土）

設問内容

調査対象者 未成年期に家庭内にて児童虐待を受けていた経験（他者から認められているかどうかは問わず、自分自身が「虐待を受けていた」又は「あれは虐待だったのではないか」と認識している経験）があるが、社会的養護に繋がることのなかった成人

未成年期における児童虐待被害の状況及び成人後における虐待の影響について 【未成年期に関する質問】 選択式（必須）：10問、自由記述（任意）：10問  
【成人後に関する質問】 選択式（必須）：10問、自由記述（任意）：10問

トラウマ治療について 選択式（必須）：10問

社会に知って欲しいこと 自由記述（任意）

最終学歴 選択（必須）

年代 【選択・必須】18～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳、45～49歳、50～54歳、55～59歳、60歳～

性別 【選択・必須】男性、女性、その他、

居住地 【選択・必須】未成年期、及び、現在

メールアドレス 必須（自由記述）

ニックネーム 必須（自由記述）

## （アンケート表示画面）

「見えなかった子どもたち」アンケート

※ 心理的に負担の掛かる質問も含まれています。決して、ご無理のないようお進みください。また、必須の項目は、選択の質問のみとなります（ニックネーム、メールアドレスを除く）。記述の質問への回答は負担も掛かりますので、未記入のまま進んでくださって構いません。何よりも、ご自身を守りながら、負担を掛け過ぎないようにお願いいたします。

=調査対象者=  
子ども（～18歳）に家庭内にて児童虐待を受けていた経験（他者から認められているかどうかは問わず、自分自身が「虐待を受けていた」又は「あれは虐待だったのではないか」と認識している経験）がある、又は、毒親に育てられたと認識しているものの、社会的養護に繋がることなく（保護されることなく）18歳以上である方。

=見えなかった子どもたちとは？=  
上記の「調査対象者」のことを指します。  
調査対象者は、児童虐待の事実を発見されることがなかったことから、その虐待自体がまるで無かったかのうにされ、見えなかったこと、見えなかったこととして置かれてしまっていることから、「見えなかった子どもたち」と呼んでいます。

=調査目的=  
見えなかった子どもたちの多くは、成人後も様々な虐待後遺症を抱え込み、耐え難い生き辛さを抱えています。また、種々の家族や環境が存在しないことを原因の一つとして、社会生活の中で様々な壁が立ちます（例えば、進学、保証人、経済面、など）。しかし、当該当事者の実態を調査したデータはほとんど見られず、そのことが支援対策が進まない理由の一つとなっています。  
そこで、当該当事者への公的支援必要性を明らかにするための手段の一つとして、当事者へのアンケート結果によって、施策をデータ化することを目的とします。データは、確実な匿名化処理を施して提供いたします。

# 調査結果（基礎データ）

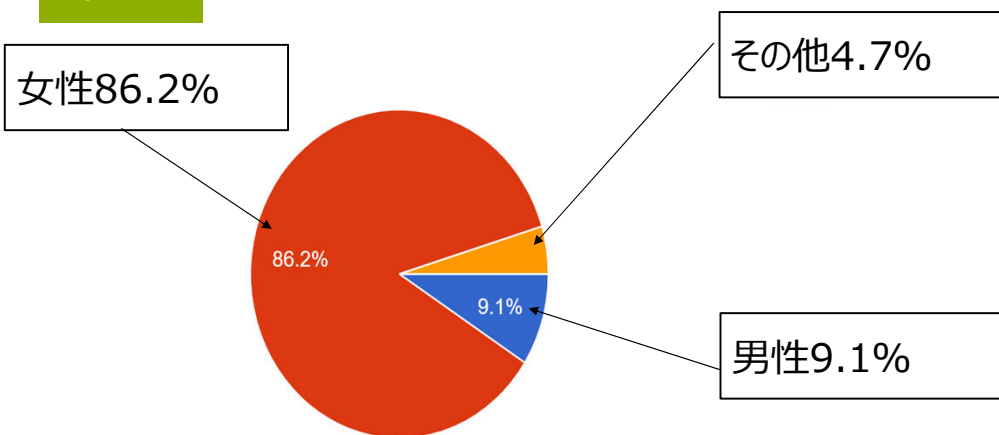
# 調査結果（基礎データ）

実施期間（22日間）	2023年9月9日（土）～9月30日（土）
回答人数	683人（メールアドレス、ニックネーム必須）
質問数	55項目（選択式：35問、自由記述20：問）
自由記述回答数	合計回答数：7,323件
性別	男性：62人　女性：589人　その他：32人
年代	18～24歳：108人　25～29歳：92人　30～34歳：101人 35～39歳：108人　40～44歳：109人　45～49歳：73人 50～54歳：47人　55～59歳：27人　60歳～：17人
回答に要する想定時間	40分～60分程度

# 調査分析

# 調査結果（性別/年代別）

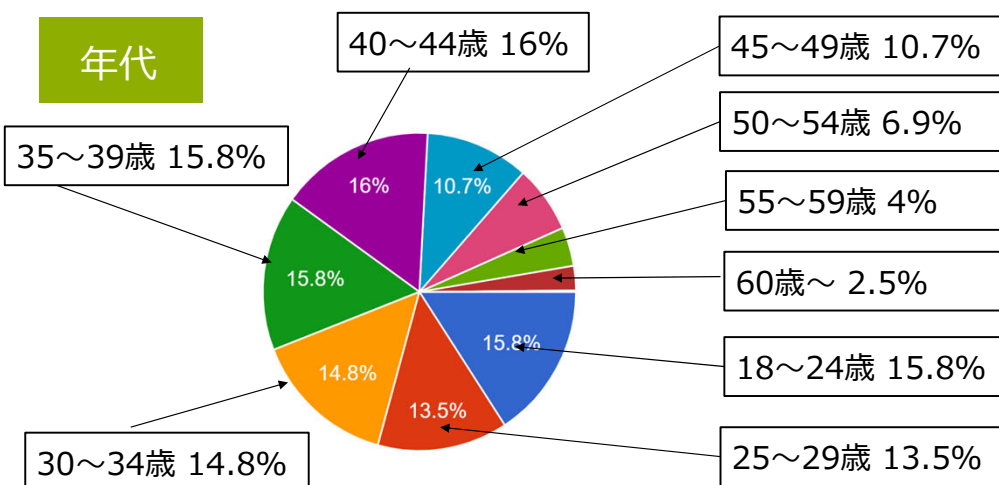
## 性別



## ポイント

- 回答者の性別構成割合は、**男性9.1%、女性86.2%**、その他4.7%
- 実人口の割合(男性：48.6%、女性：51.4%)と大きく異なる。
- 被害児童の割合(男児：51.1%、女児48.9%)と大きく異なる。
- **男性の方が、自分の声を出すことへの抵抗が強い**のではないかと。

## 年代



## ポイント

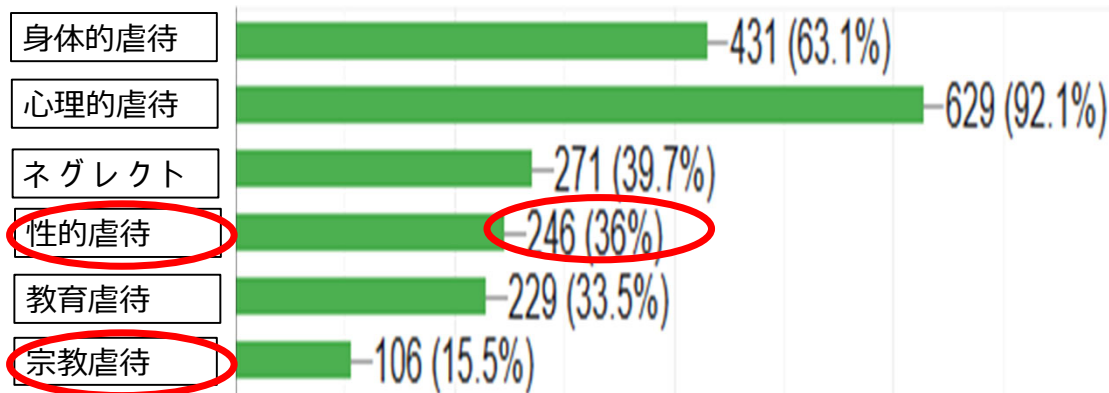
- 回答者の年齢別構成割合は、18～44歳まで、ほぼ同程度である。
- 18～39歳の割合：59.9%、40歳～の割合：40.1%
- 40代以上の回答者の割合も、相当に大きいことに注目。**虐待を受けてきた経験を知って欲しい想いは、年齢を重ねても大差なく抱えている**のではないかと。



# 調査結果（種類/関係性）

## 虐待の種類

【選択式】【複数回答可】【必須】

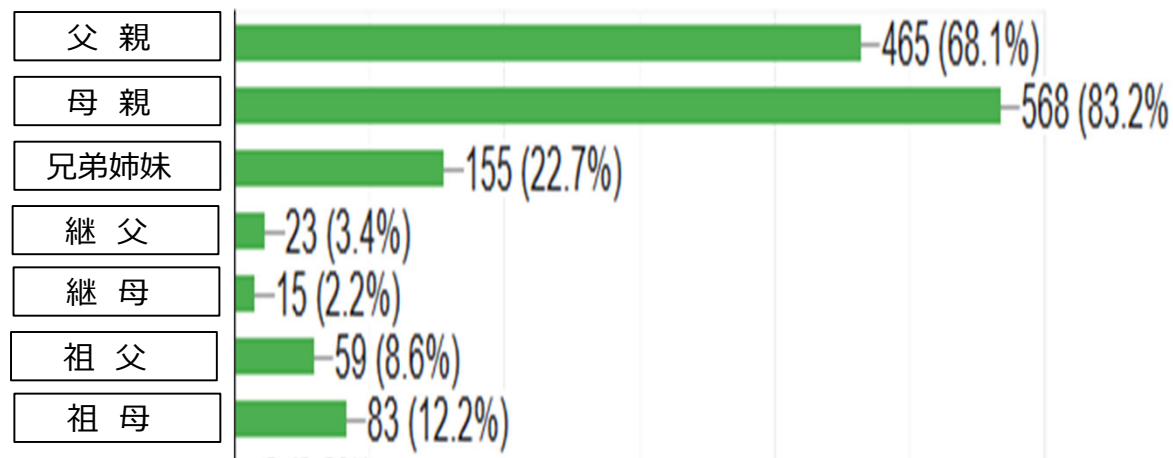


## ポイント

- 虐待の定義では、「身体的」「心理的」「性的」「ネグレクト」の4種に分類されているが、「**教育虐待**」及び「**宗教虐待**」についても、**回答**を求めた。
- **性的虐待**の割合は、こども家庭庁より発表されている割合（1%程度）と大きく異なる。→**発見のし難さが影響している**のではないか。
- 「教育」「宗教」の名の元で、虐待行為に発展しているケースが相当割合あることが確認できる。

## 加害者との関係

【選択式】【複数回答可】【必須】



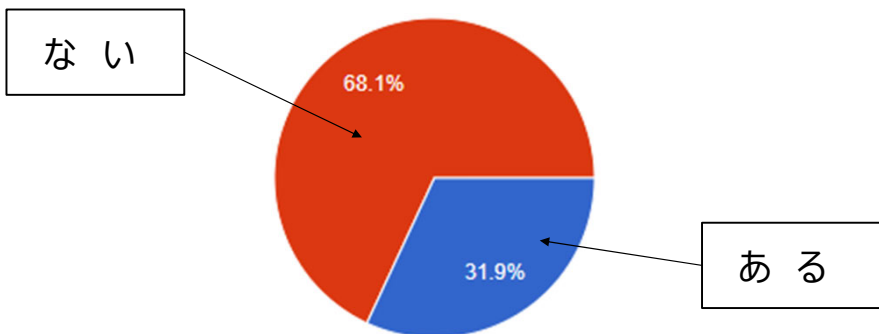
## ポイント

- 父親と母親の割合は、警察庁生活安全局より発表されている割合（父親は母親の2倍程度の割合）と大きく異なる。→**母親からの虐待は、検挙に繋がらない（発見されない）ケースが多い**のではないか。
- 兄弟姉妹からの虐待割合も高いことが分かる。→**兄弟間での格差が原因**にあるのではないか。
- 左記以外に、1%以下の割合で次の回答あり。→叔父、叔母、いとこ、曾祖母、母親の交際相手、カルト教団の世話係、等。

# 調査結果（他者への助け）

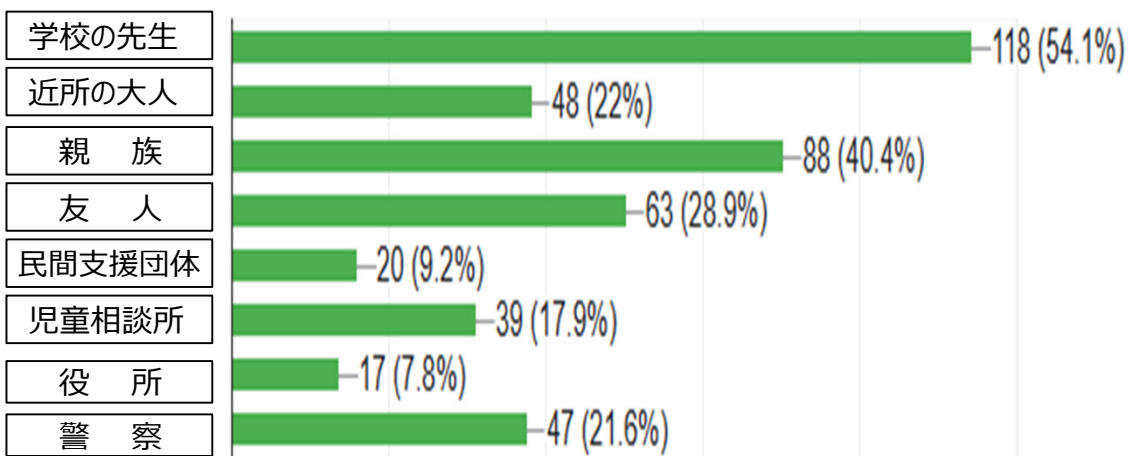
## 他者への助け

【選択式】【必須】  
虐待を受けていた当時、自ら助けを求めたことがありますか？



## 助けを求めた相手

【選択式】【複数回答可】（「助けを求めた」と答えた人のみ）  
【回答者数】218人  
助けを求めた相手は、誰ですか？



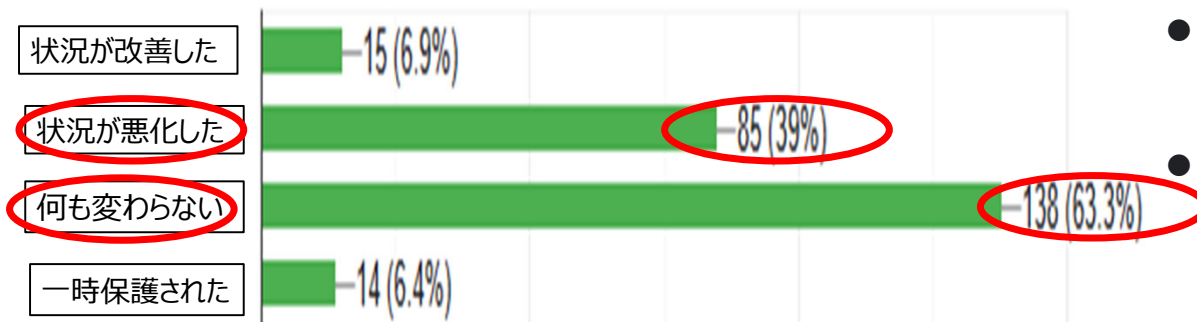
## ポイント

- 助けを求められない割合が、求めた割合の2倍以上である。→**子ども自ら助けを求めることの難しさ**が分かる。
- 児童相談所における虐待相談対応のうち、児童本人からの相談は1%程度である。→**子ども自ら助けを求められる環境作りが急務**ではないか。
- その他、左記以外の助けを求めた相手に、「スクールカウンセラー」1.8%。1%以下の割合で次の回答あり。  
↓  
保健室の先生、習い事の先生、医師、カウンセラー、専和相談の相手、宗教の仲間、宗教関係者、祖父母、友人の親、いとこ、ボランティア団体、恋人、入院先の看護師、マンションの管理人、弁護士、母親の友人、教会、教会の牧師夫人、学習塾の講師、母親、父親、人権相談センター、夜回り先生。  
→**子どもの限られた人間関係の範囲の中で、様々の関係者に相談することを試みている**ことが分かる。

# 調査結果（他者への助け）

## 相談後の変化

【選択式】【複数回答可】（「助けを求めた」と答えた人のみ）  
 【回答者数】218人  
 虐待を受けていた当時、他者への相談後、状況に変化はありましたか？



## ポイント

- 改善した割合の低さが確認できる。→虐待の事実を相談された際における**周りの大人の対応方法を周知する必要がある**のではないかな。
- 虐待を受けている子どもたちにアウトリーチするために、子どもに関わりのある全ての大人（保護者、教職員、幼児教育・保育・青少年教育に携わる者等）を対象に、**人権教育の一つのトピックとして、「児童虐待」への意識を高める必要がある**のではないかな。

## 助けを求めない理由

【自由記述】【任意】（「助けを求めている」と答えた人のみ）  
 【回答者数】452人  
 なぜ、助けを求めなかったのですか？理由を聞かせて下さい。

内容	人数	割合
助けの求め方が分からない 助けてもらえることとっていない	141人	31.1%
虐待との認識が無かった	115人	25.4%
親や周囲の人への恐怖心	31人	6.8%

## ポイント

- 回答の多かった内容のみ割合を算出している。
- 「**助けの求め方が分からない」「虐待の認識の無さ**」の割合の**高さ**が確認できる。  
 また、児童相談所における虐待相談対応のうち、児童本人からの相談は1%程度である。→**子ども自ら助けを求められる環境作りが急務**ではないかな。
- 「恐怖心」→**周りの大人から子どもへのアプローチが重要**ではないかな。

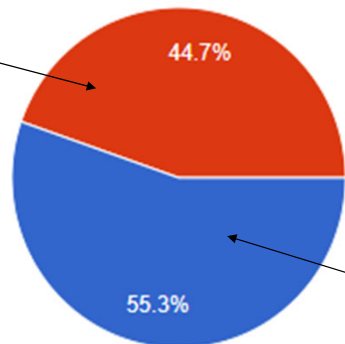
# 調査結果（虐待のサイン/虐待の認識時期）

## 虐待のサイン

【選択式】【必須】

虐待を受けていた子ども時代、「虐待を受けているサイン」を発していましたか？

ない



ある

## ポイント

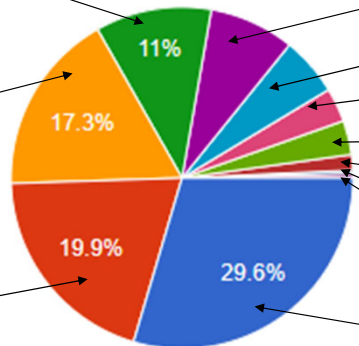
- 「保護」には至っていないものの、虐待に関する何らかのサインを発している割合が相当に高いことが確認できる。  
→ 周囲の大人が、子どもからのサインに気付ける環境づくりが必要ではないか。
- 一方、虐待に関するサインを発していない割合も同程度確認できる。  
→ 子ども自ら周囲の大人へ助けを求められるよう、人権教育における一つのトピックとして、「児童虐待」に関する内容を充実させることが必要ではないか。

## 虐待の認識時期

【選択式】【必須】

自分が虐待を受けている（又は、いた）と気付いた時期は、いつですか？

25～29歳 11.0%



20～24歳 17.3%

15～19歳 19.9%

30～34歳 8.1%

35～39歳 5.6%

40～44歳 3.2%

45～49歳 3.2%

50～54歳 1.5%

55～59歳 0.3%

60歳～ 0.4%

～14歳 29.6%

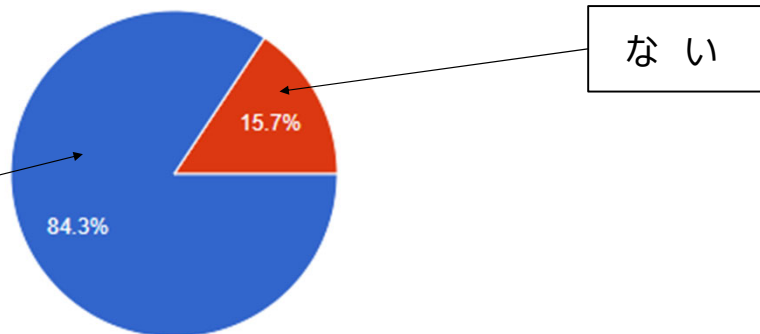
## ポイント

- 「虐待の認識時期」が20歳以上である割合が50.5%と過半数を超えることが確認できる。  
また、現在、社会的養護に繋がることができる時期は20歳までとなっている。  
これらを鑑みると、虐待を認識した時点で既に上限年齢を超えているケースが相当数あることが分かる。  
→ 子どもに対して、「児童虐待」を認識するための学びの機会（人権教育）を充実させること、社会的養護受入れの上限年齢の引き上げの検討が必要ではないか。

# 調査結果（虐待の影響/精神面）

## 精神科の受診

【選択式】【必須】  
精神科、心療内科、又は、メンタルクリニックを受診したことはありますか？

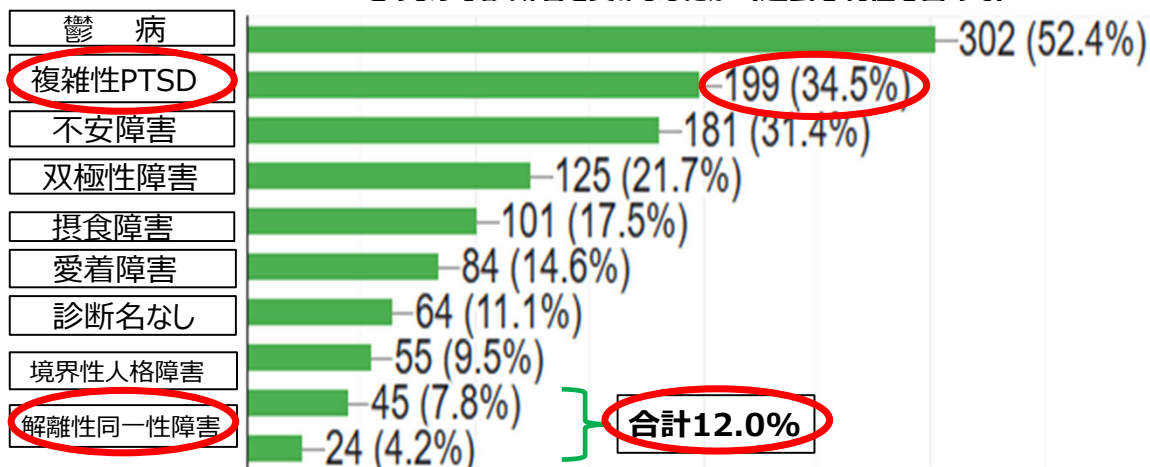


## ポイント

- **精神科受診率が著しく高いことが確認できる。**  
（参考（2017年度）：日本全体の20歳以上の精神科受診率3.9%（精神科患者数：419.3万人、20歳以上の人口：10533万人））  
→児童虐待による精神への影響の高さが窺え、**メンタルケアへのアプローチが必須**ではないか。
- **児童虐待が精神へ与える影響を、子どもに関わる全ての大人への理解が必要**ではないか。

## 精神科での診断名

【選択式】【複数回答可】（「受診したことがある」と答えた人のみ）  
【回答者数】576人  
どのような診断名を受けましたか（過去も現在も含めて）？



## ポイント

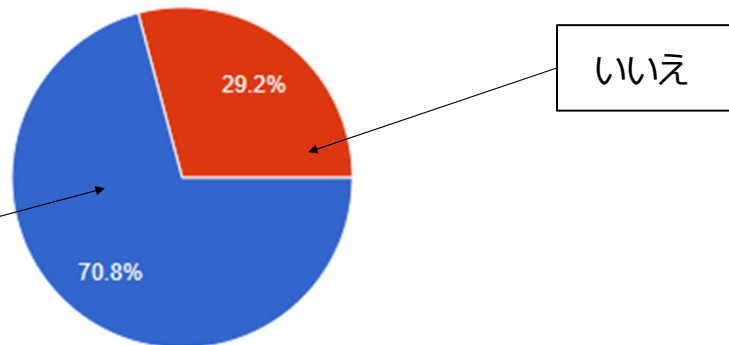
- **複雑性PTSD**（原因：長期間にわたる身体的、性的、心理的虐待、拘束、宗教的な洗脳、戦争など、慢性的なストレスによる多数の外的ストレス）**の発症割合の高さに注目**したい。
- **解離性同一性障害**（原因：小児期における圧倒的なストレスや心的外傷を経験した人に発症すると言われており、患者の90%が小児期に酷い虐待を受けていたというデータもある）**の発症率の高さに注目**したい。  
（参考：小規模な研究ではあるが、発症率は1.5%とのデータあり）



# 調査結果（虐待の影響/精神面）

## 現在治療の有無

【選択式】【必須】（「受診したことがある」と答えた人のみ）  
 【回答者数】576人  
 現在も、精神科等にて治療中ですか？



## ポイント

- **精神科受診率が著しく高いことが確認できる。**  
 （参考（2017年度）：日本全体の20歳以上の精神科受診率3.9%（精神科患者数：419.3万人、20歳以上の人口：10533万人））  
 →児童虐待による精神への影響の高さが窺え、**メンタルケアへのアプローチが必須**ではないか。
- **児童虐待が精神へ与える影響を、子どもに関わる全ての大人への理解が必要**ではないか。

## 疾患による症状

【自由記述】【任意】（「受診したことがある」と答えた人のみ）  
 【回答者数】477人  
 診断を受けた病気により、どのような症状に苦しい想いをしていますか（又は、していましたか）？

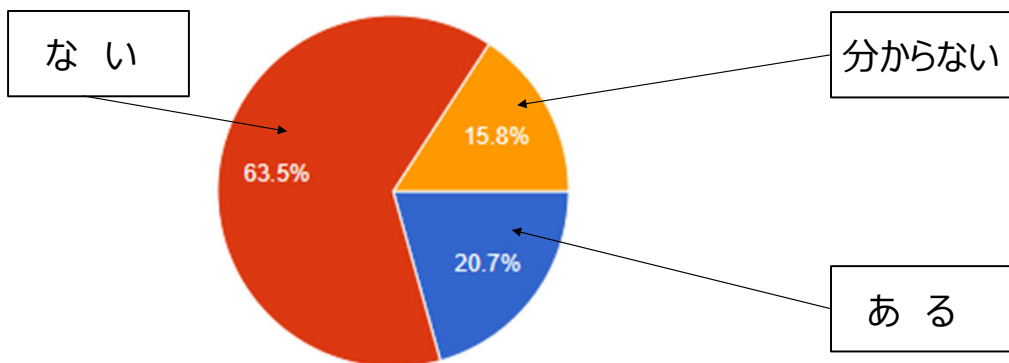
### キーワード検索割合

キーワード	人数	割合	キーワード	人数	割合
死	113人	23.6%	フラッシュバック	106人	22.2%
自殺	31人	6.4%	パニック	30人	6.2%
自傷	24人	5.1%	食	51人	10.7%
OD（オーバードーズ）	13人	2.7%	寝・眠	102人	21.4%

# 調査結果（トラウマ治療）

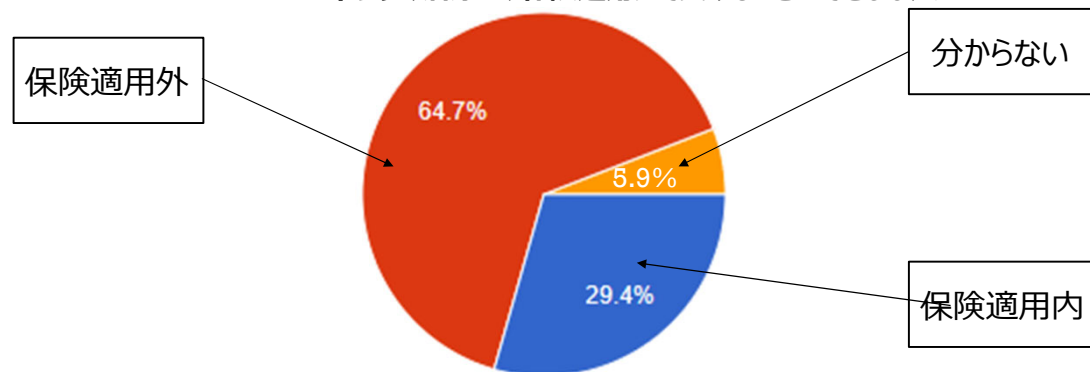
## トラウマ治療の有無

【選択式】【必須】  
トラウマ治療を受けたことはありますか？



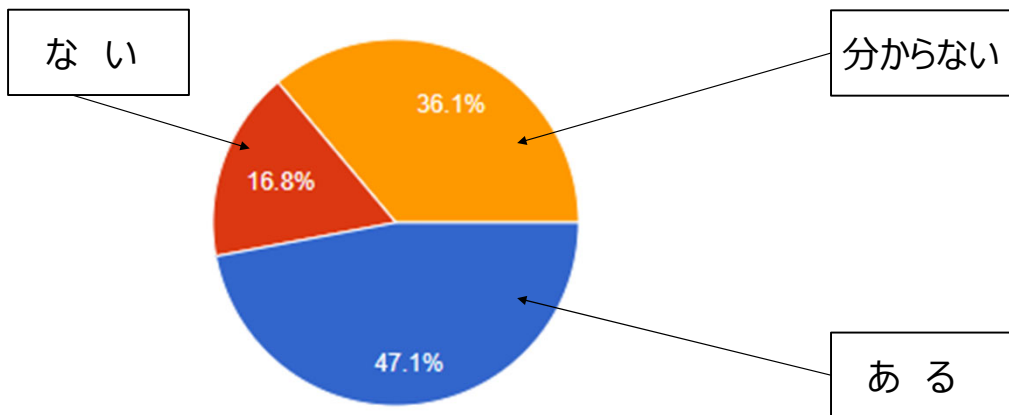
## 保険適用の有無

【選択式】【必須】（トラウマ治療を受けたことが「ある」と答えた人のみ）  
【回答者数】119人  
トラウマ治療は、保険適用にて受けることができましたか？



## トラウマ治療の効果

【選択式】【必須】（トラウマ治療を受けたことが「ある」と答えた人のみ）  
【回答者数】119人  
トラウマ治療による効果はありましたか？



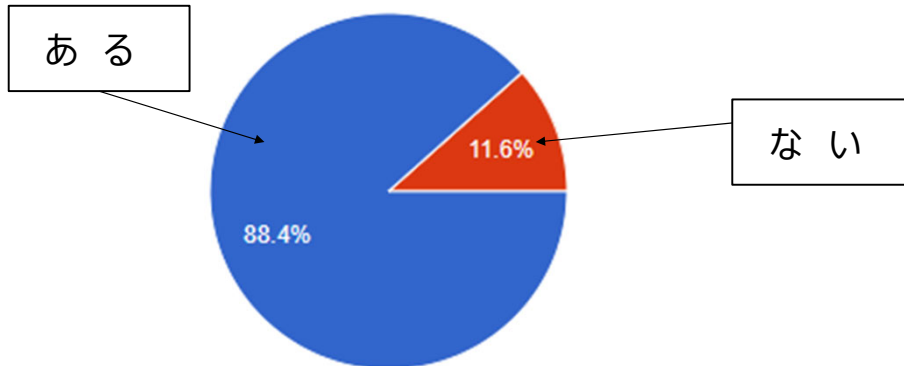
## ポイント

- **トラウマ治療による効果が半数近くの人に見られる。**  
一方、**トラウマ治療経験者の割合は2割程度。**  
保険適用による受診割合は3割程度。  
→トラウマ治療について、健康保険適用外であること、虐待対応に関する資料報酬が存在しないこと、専門家の不足等により、治療に繋がり難い状況にある。  
**トラウマ回復のため、治療へのアクセスのし易さが必要**ではないか。

# 調査結果（虐待の影響/精神面以外）

## 困りごとの有無

【選択式】【必須】  
18歳以降、虐待を受けてきたことを要因として、困ることはありましたか（病気以外）？

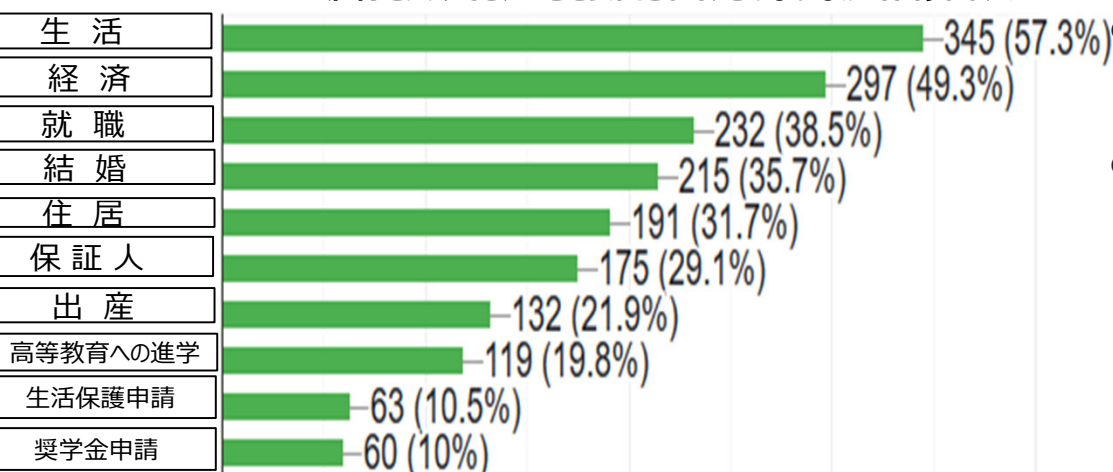


## ポイント

- 精神面以外にも、虐待の影響により困りごとを抱えている者の割合が極めて高いことが分かる。  
→困りごとの相談や解消するための支援や窓口が必要、かつ、急務ではないか。

## 困りごとの内容

【選択式・複数可】【必須】（困りごと「ある」と答えた人のみ）  
【回答者数】603人  
虐待を受けてきたことを要因として、どのような点で困りましたか？



## ポイント

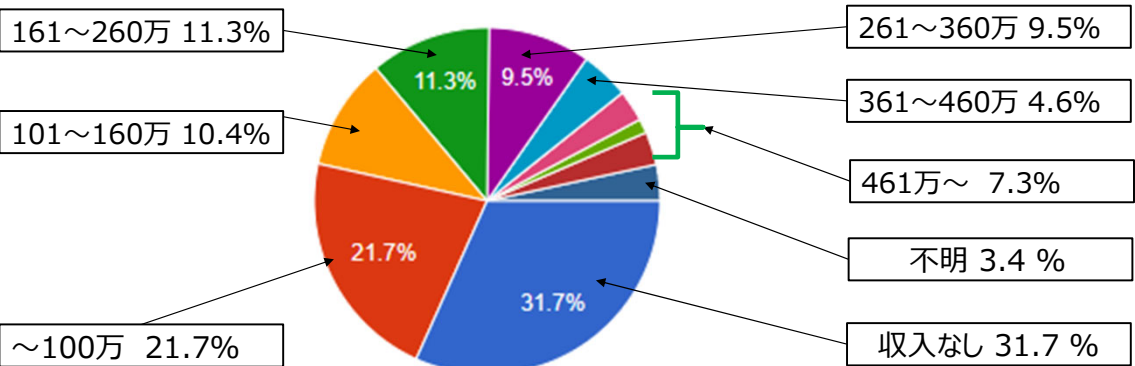
- 生活に関わるあらゆる重要局面において、2割から5割程度の者が困りごとを抱えていることが分かる。
- 児童福祉法により、児童養護施設等入所等の措置等を解除された者等に対して、社会的養護自立支援事業（生活相談・就労相談・居住費支援・生活費支援等）及び身元保証人確保対策事業（就職時の身元保証・大学等入学時の身元保証等）等がある。  
→当該事業に係る支援対象者について、「児童養護施設等の措置等を解除された者等」の範囲を拡充する必要があるのでないか。



# 調査結果（収入/経済）

## 年収(令和4年度)

【選択式】【必須】  
令和4年度の年収を教えてください（障害年金、生活保護費を除く）？



## ポイント

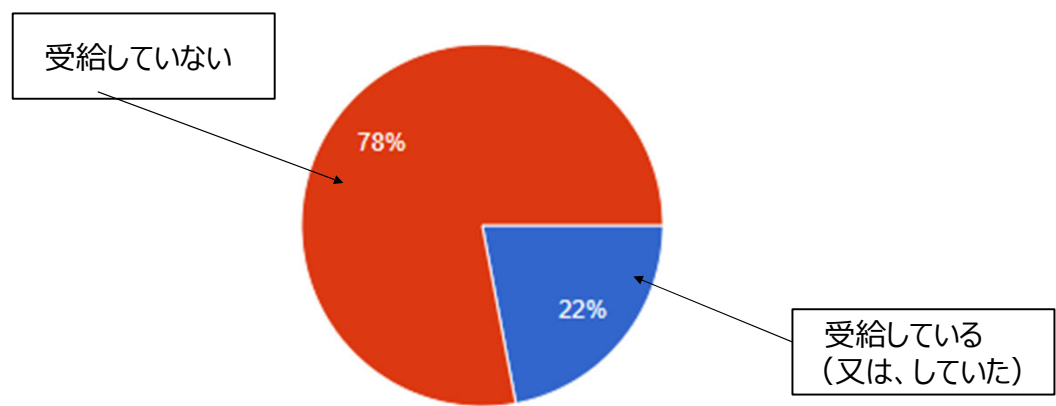
- 収入：100万円  
→可処分所得：88万円
- 収入：160万円  
→可処分所得：140万円

【参考】（令和3年度）  
貧困層の可処分所得：127万円  
相対的貧困率：15.4%

- 収入100万円以下：53.4%、収入160万円以下：63.8%  
→**貧困層に占める割合が、日本全体に対して、極めて高いことが窺える。**

## 障害年金受給

【選択式】【必須】  
診断を受けた病気により、どのような症状に苦しい想いをしていますか（又は、していましたか）？



## ポイント

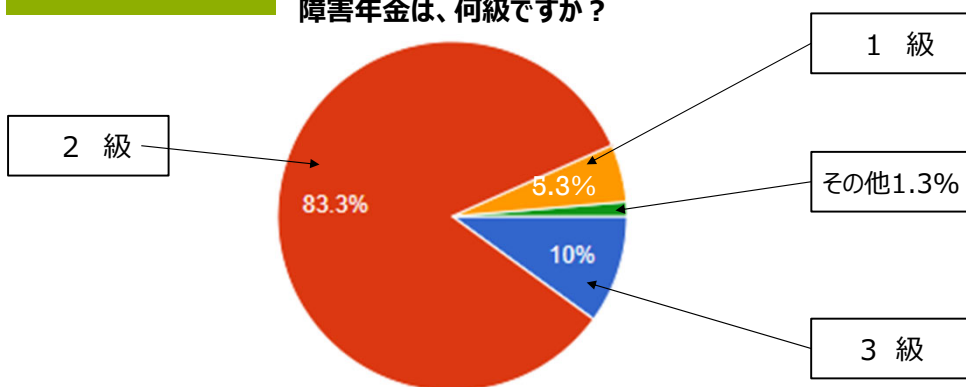
- **障害年金の受給率が、日本全体の受給率に比して、極めて高いことが分かる。**

【参考】（令和3年度）  
20歳以上の人口：10533万人  
障害年金受給者数：220万人  
障害年金受給率：2.0%

# 調査結果（収入/経済）

## 障害年金等級

【選択式】【必須】（障害年金の受給経験がある人のみ）  
 【回答者数】150人  
 障害年金は、何級ですか？



## ポイント

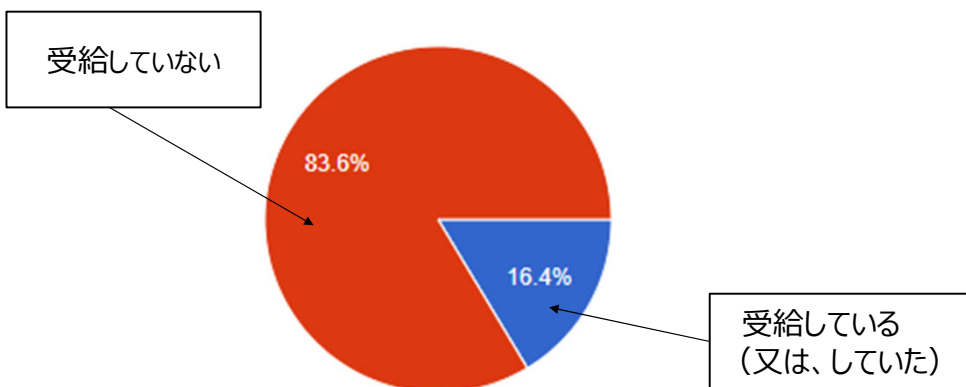
- 障害年金受給者のうち、**2級の受給者割合が、日本全体に対して、顕著に高いことが窺える。**

【参考】障害年金受給者数（令和2年3月末）

等級	年金	受給者数	割合
1級	厚生年金	7.2	31.8%
	基礎年金	69.2	
	合計	76.4	
2級	厚生年金	23.5	62.3%
	基礎年金	126.1	
	合計	149.6	
3級	厚生年金	14.3	6.0%
合計		240.3	100.0%

## 生活保護受給

【選択式】【必須】  
 生活保護を受給していますか（又は、していましたか）？



## ポイント

- **生活保護受給割合が、日本全体に対して、極めて高いことが分かる。**  
 →障害年金及び生活保護受給者割合の高さを鑑みると、**心身の回復に向けたアプローチが必要**ではないか。  
 また、**生活困窮に陥る可能性が高い**と考えられ、相談やそれを解消するための支援や窓口が必要、かつ、急務ではないか。

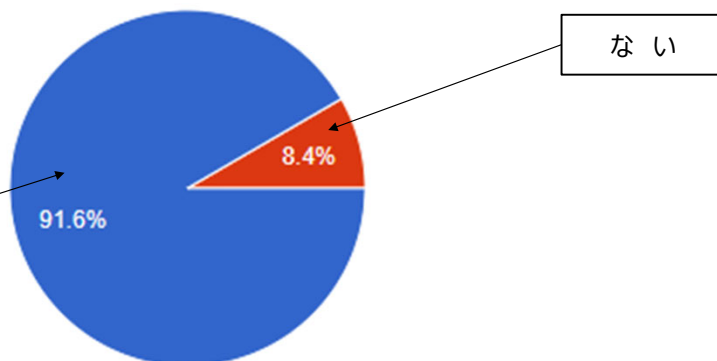
【参考】（令和5年1月）  
 生活保護受給者総数：2,024,421人  
 保護率（人口百人当）：1.62%

（厚生労働省）

# 調査結果（自殺への思い）

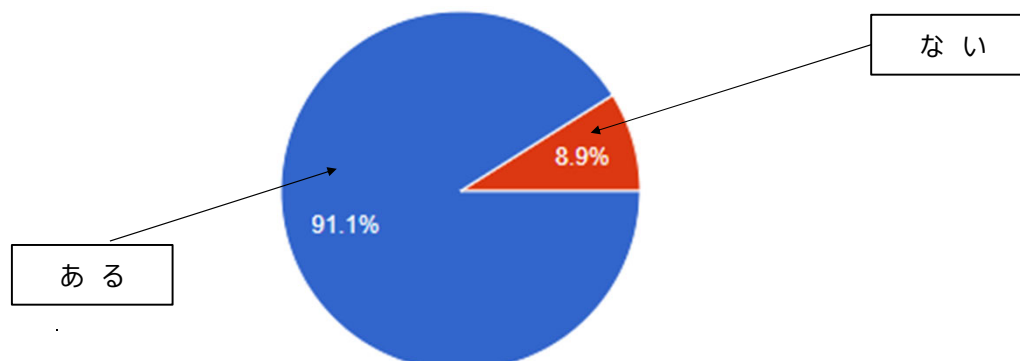
## 希死念慮

【選択式】【必須】  
希死念慮はありますか（又は、ありましたか）？



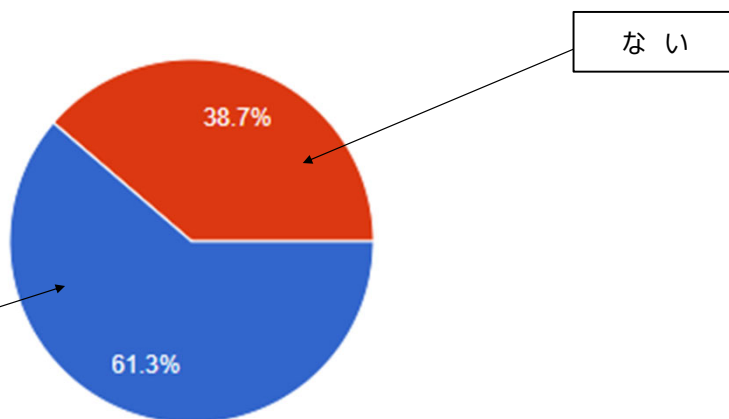
## 自殺願望

【選択式】【必須】  
自殺を考えたことはありますか？



## 自殺の実行

【選択式】【必須】（自殺を考えたことが「ある」と答えた人のみ）  
【回答者数】620人  
自殺への願望を実行に移したことはありますか？



## ポイント

- 希死念慮、自殺願望、及び、自殺未遂のいずれも極めて異常なまでの高い割合であることが確認できる。  
→ 孤独の解消や長期に渡っての寄り添った支援が、急務で必要ではないか（相談や問題を解消するための支援や窓口の設置等）。また、希死念慮の原因となり得るトラウマの回復に向けて、治療へのアクセスのし易さも重要ではないか。

【参考】（令和2年4月～令和3年3月）

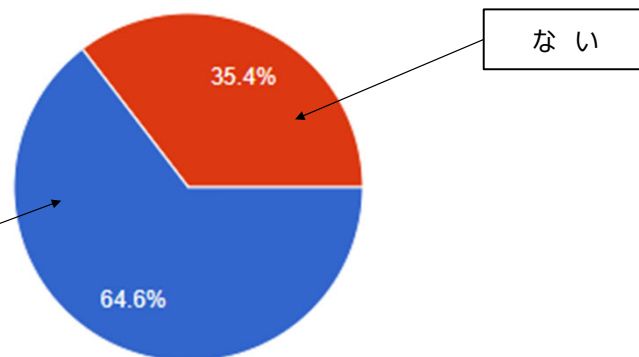
自殺未遂経験者割合：2%

（調査：日本財団「コロナ禍におけるインターネット調査（2万人対象）」）

# 調査結果（二次的被害）

## 二次的被害

【選択式】【必須】  
18歳以降、虐待の二次的被害を受けたことはありますか？



## ポイント

- 子どもの頃の虐待体験に起因した二次的被害を受けている者の割合が、極めて高いことが確認できる。  
→ 周囲の人の「児童虐待」に対する理解度の低さや、小児逆境体験により及ぼされる不安、恐怖、対人関係上の問題などによる影響もあるのではないかと。

「二次的被害」とは？

一次被害（児童虐待）を受けたことにより、それを起因として発生する様々な被害のことをいう。不適切な言動やプライバシーの侵害などで精神的に傷付けられるほか、時間的負担や経済的困窮など、生活に支障をきたすことがある。

## 具体的内容

【自由記述】【任意】（二次的被害を受けたことが「ある」と答えた人のみ）  
【回答者数】369人  
誰から、どのような二次的被害を受けたか、具体的に聞かせて下さい。

## ポイント

- 身近な人や相談先、助けを求める先の相手から二次的被害を受けている割合が、一定割合確認できる。

### キーワード検索割合

※ 具体的内容については、別紙（P44、45）にて抜粋している。

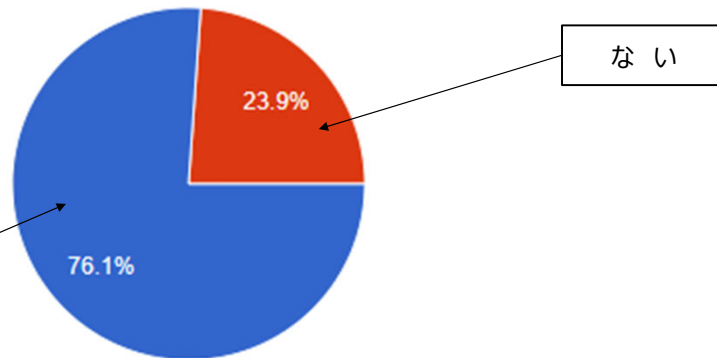
キーワード	人数	割合	キーワード	人数	割合
医師・看護師・病院・カウンセラー	48人	13.1%	学校・先生・担任・教師・講師	19人	5.2%
福祉・役所	25人	6.8%	友	47人	12.8%
警察	14人	3.9%	パートナー・恋人・彼・夫	38人	10.4%
相談	27人	7.4%	兄・弟・姉・妹・祖父・祖母・叔母・親戚	69人	18.8%

# 調査結果（成人後/相談）

## 相談

【選択式】【必須】

18歳以降、虐待を受けていたことについて、誰かに相談したことはありますか？



## 相談相手

【自由記述】【任意】（誰かに相談したことが「ある」と答えた人のみ）  
【回答者数】491人  
誰に相談しましたか？

### キーワード検索割合

キーワード	人数	割合	キーワード	人数	割合
医師・看護師・病院・カウンセラー	96人	19.6%	学校・先生・担任・教師・講師	37人	7.6%
福祉・役所・行政・ケースワーカー	32人	6.6%	友	162人	33.0%
警察	8人	1.7%	パートナー・恋人・彼・夫・妻・配偶者	125人	25.5%
相談	32人	6.6%	兄・弟・姉・妹・祖父・祖母・叔母・親戚	35人	7.2%

## ポイント

- **誰かしらに相談している割合が7割超と極めて高いことが確認できる。**  
（子どもの頃に助けを求めた割合が31.9%であったのに対し、2倍以上増えている）  
→相談してみたいとの思いから実際の行動まで移せている割合の高さ、及び、二次的被害の割合の高さを鑑みると、**虐待の事実を相談された際における周りの大人の対応方法を周知する必要がある**のではないかと。
- **誰にも相談していない割合が2割超あることが確認できる。**  
→**相談しやすい環境を整える**ために、現在ある制度や支援の周知や、支援制度の拡充が必要ではないかと。

## 具体的な提案・要望

# 具体的な提案・要望①

## 社会的養護未経験の児童虐待被害者の実態調査を行うこと

- ① **社会的養護未経験の児童虐待被害者の実態を明らかにするため、実態調査を行い、必要なデータの集計、分析、評価などによる課題等を整理すること。**
- ② ①の実態調査に係る事前準備段階において、**社会的養護未経験の児童虐待被害者、及び、当該被害者に係る民間支援団体等の意見を反映すること。**  
また、**政府有識者会議やこども家庭庁でのヒアリングの場に、社会的養護未経験の児童虐待被害者、及び、当該当事者に係る民間支援団体等を参画させ、より現実に即した政策立案を実施すること。**

# 具体的な提案・要望②

## 社会的養護自立支援事業に係る生活相談等を社会的養護未経験の児童虐待被害者、に対して拡充すること

- ① 社会的養護未経験の児童虐待被害者について、精神疾患発症率、及び、自殺願望者率の高さが顕著であることを鑑みると、当該問題の解決に繋げるための**孤独の解消や長期的に渡っての寄り添った支援が最重要である**と考える。  
そのため、児童福祉法により、児童養護施設入所者等の措置等を解除された者等に対し行われている**社会的養護自立支援事業**（生活相談・就労相談・居住費支援・生活費支援等）及び身元保証人確保対策事業（就職時の身元保証・大学等入学時の身元保証等）等のうち、特に、**生活相談に係る支援事業が不可欠であり、社会的養護未経験の児童虐待被害者へも拡充すること。**
- ② 社会的養護未経験の児童虐待被害者を対象に**支援を行う民間支援団体に対し、事業実施に要する費用を補助金等にて予算を割り当てること。**
- ③ ①及び②の支援対象者について、**年齢制限を設けず、実施すること。**
- ④ 当該事業拡充実施において、**社会的養護未経験の児童虐待被害者、及び、当該被害者に係る民間支援団体等より、意見を求め、反映すること。**



# 具体的な提案・要望③

## トラウマ治療促進を目的とした医療体制の見直し及び検討を行うこと

- ① 小児逆境体験である虐待が、こころや脳など心身の健康に及ぼす影響が大きいことは知られるところであり、その影響からの回復には、**トラウマに関する治療が不可欠、かつ、急務**である。しかし、現状、トラウマに関する専門的治療について、専門の医師や心理士等の不足、診察予約の取り難さ、虐待対応に関する診療報酬が存在しないこと、治療の大半が健康保険適用外（自費診療）であること等により、社会的養護未経験の児童虐待被害者の治療・回復を妨げる大きな要因となっている。そのため、**トラウマ治療へのアクセラをし易くするため、専門家の増員、診療報酬の見直し等を行うこと。**
- ② ①の見直しの他、社会的養護未経験の児童虐待被害者への**トラウマ治療が進むよう、対策を検討すること。**

# 具体的な提案・要望④

## 子どもの権利教育における「児童虐待」に関する内容を充実させること

- ① 子どもは虐待を虐待として認識すること、及び、逆境体験に在ることについて他者に助けを求めることについて、自らの力だけでは難しい現状があり、実際、児童相談所における虐待相談対応に繋がる子どもの内、子ども自らの行動による割合は1%程度と僅少であるという実態がある。  
そのため、**子ども自ら周囲の大人へ助けを求め、早期に支援へと繋がること、及び、早期にトラウマケアを始められることを目的に、子どもらに対し、子どもの権利教育における一つのトピックとして、児童虐待に関する内容を十分に充実させること。**
- ② **虐待を受けている子ども・虐待を受けてきた者が助けを求めやすい環境**を作るために、保護者や教職員、幼児教育・保育や青少年教育に携わる者等の子ども・若者等に関わり得る全ての大人に対し、人権に対する理解や人権尊重の意識を高める**人権啓発活動における一つのトピックとして、児童虐待に関する内容を十分に充実させること。**
- ③ 教育・保育等の現場における**子どもの権利教育を進めるに当たって、外部講師の活用を推進**すること。

## 主な意見（自由記述・抜粋）

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

最も苦しかったことや困ったことを教えてください。①

意見	性別	年代（歳）
洗濯もコインランドリーでしていた。文句を言われること。嫌みなことや意地悪なことをいわれていた。姉妹が私のやってないことをされたと嘘をついて叱られた。差別されていて、辛かった。継母からもバカにされていた。言葉の暴力が辛かった。	女性	45～49
親の代わりに親の役目をしないといけない事が1番苦しかった(親戚付き合い、弟のお守り、両親の喧嘩の仲裁、母親のケア)。	女性	35～39
兄から性的虐待を受けていたんですが、それそのものよりも母親に助けを求めた時に「お前が悪いだろう！」と怒鳴られた事でもう誰にも助けを求められなくなってしまったのが苦しかった。 自分さえ黙っていればこの家庭の平和は保たれるんだっていう我慢一択しか道が見えずに辛かった。	女性	40～44
怒声が怖かった。宗教で父が別人のようになってしまって悲しかった。家族団欒の会話が全て、宗教に結び付けられてしまうので、何も話す気にならなかった。	女性	25～29
当時は虐待が当たり前で、何が苦しかったのか、困っていたのか、わかりません。	女性	35～39
愛されたかった。普通の親の愛を知りたかった。	女性	45～49
食べるもの、お金、交友関係の制約、進学先の不自由	女性	30～34
親に存在や考えを全部否定されるのはキツかった。10歳で心が折れて考える力も気力も何も起きずただ無気力に過ごす日々は地獄。周りのいわゆる普通の家庭が羨ましかった。	女性	40～44

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

最も苦しかったことや困ったことを教えてください。②

意見	性別	年代（歳）
家に帰ること、兄がいること、仲の良い兄妹をしなければいけなかったこと、自分も共犯者という意識があったこと。	女性	35～39
誰もこの事実を知らないこと。	女性	35～39
外見、性格全てを否定される。ご飯を食べさせてもらえない。性的ないたづらをされる。どこにいても安心できず、毎日不安。	女性	30～34
殴る蹴る、言葉の暴力。	女性	18～24
身体的・心理的虐待を受けていたけどアザが出来なかったので周囲の大人に誰も気づかれないまま大人になったのが辛かったです。また、離婚はしましたが父がアルコール依存症だったり面前dvを受けていたのでそのことをは周囲には隠さなきゃと必死になってました。	その他	25～29
虐待を家庭の外の人に言うてはならないと思っていた。親への怒りを抑圧していたので、ほとんどの感情が分からなくなった。母からの心理的な虐めと、父の暴力が苦しかった。	女性	45～49
祖母が爆発すると夜中や明け方まで怒鳴り声や物の壊れる音が止まらないこと、それでもいつも通り生活しなくちゃいけないこと、学校にもどこにも逃げ場がなかったこと。	女性	18～24
毎日泣いていた事・常に怯えていた事・誰かに虐められて、誰かを虐めていた事・生きているという実感がなかった事。	女性	25～29
ご飯が食べさせてもらえなかった。夏も冬も深夜0時までずっと外でキツかった。	女性	45～49

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

誰かに相談した時、良かったことを教えてください。①

意見	性別	年代（歳）
学校で支援してもらえた	女性	18～24
SNSで相談した時に同じような家庭環境の人と出会えて理解してもらえた。	女性	25～29
友人が、家の門限ギリギリまで逃げ場所を提供してくれた。	女性	30～34
都内へ引越しができた。	女性	18～24
自傷行為もひどかったのもあり、精神科に入院し、“家族”というものから少し離れることができた。	女性	18～24
殺されずに済んだ。少し経ってから父親と別居できた。	女性	45～49
学校の先生では恩師の先生が居ます。その人は卒業後も話を聞いてくれて、話を聞いてくれる人がいるという事実は少しだけ私を支えました。	女性	18～24
小学校4年生の時最終的に、切り札として父親に『これ以上あいつ(母親)と一緒に暮らしたら殺される。もう耐えられない』と話し、父親も離婚の手続きをすぐにふんでくれたものの、母親の嘘に惑わされて大分手間取った様子でした。中学に上がる頃には父方の祖父母宅に保護してもらえました。	女性	35～39
自身が、隠すことが無くなったので堂々とできるようになった。	男性	40～44
特に、親族、友人が、何とかしようと動いてくれた。	男性	50～54

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

誰かに相談した時、良かったことを教えてください。②

意見	性別	年代（歳）
両親には恵まれなかったが、幸い、同じ境遇で理解のある姉がいた。不登校になったが支えてくれた。もうお互い30代の今でも、親よりも姉を頼り、相談したり会いに行ったりしている。	女性	30～34
心のうちを吐き出せたこと。	女性	18～24
学校の先生が、一定期間、放課後も学校で過ごせるように配慮してくれた。	女性	35～39
祖父母の家が暴力の逃げ場になった。	女性	35～39
中学3年の時に、母親の暴力により全盲になり、逃げることもできず、自殺をしようか、いっそ母親を殺そうか、精神的にすごく追い詰められていました。でも、奇跡的に警察に保護され、実家から離れられた事はとても感謝しています。	女性	30～34
母と距離を置けるように、週に1～2回元教師のご近所さんのところに通って勉強をして、夕食もいただくようになった。別のご近所さん（この方も元教師）と母もスイミングを始めて気分転換ができたせいか、心理的、身体的な虐待が減った。	女性	45～49
一時的に、祖父母から生活費を得ることができた。	女性	25～29
心の拠り所になった。地域のセンターと関わりができた。	女性	18～24
子ども家庭支援センターは、1週間に1回、自分の「つらさ」や「しんどさ」を聞いてくれた。また、母親に父親と離れるように提案してくれた。	男性	18～24

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

誰かに相談した時、困ったことを教えてください。①

意見	性別	年代（歳）
親にチクられた。	女性	18～24
四六時中監視され自由がなく薬漬けにされ、精神病院に強制入院させられた。	女性	30～34
学校に相談したため学校の様子などを親にバラされるようになり常に監視の目がある状況になってしまった。	女性	18～24
学校の先生からは、どうする事も出来ないと言われた。 宗教の仲間達に話した時は、「ここだけの話」というルールだったのに、誰かが漏らしたようで、自分の所属地域に内容が広まった事で、母に激しく怒られた。	女性	50～54
保健室の先生に父親からの性的虐待の事を相談したが信じてもらえなかった。	女性	40～44
祖母に相談した結果、取り合ってもらえなかったため、祖母や周囲への不信感（誰も助けてくれない）が大きくなった。	女性	25～29
親にバテて更に暴力を受けた、相談した先生に虐待されたからにはやられる原因があるはずだから反省させるべきだと人一倍厳しくされた、虐待なんて存在しないはずだ（親の気を引きたいだけ）と担任に体重などを書き換えられて子供向けの相談先のお知らせは渡されないようになった。	女性	40～44
信教の自由があるから口を出せない。あなたに起きていることは普通の事だと言われた。	女性	30～34
こちらにも非があると説教された。父の母へのDVについては子供が大人の事に口出しするなど説教された。	男性	50～54



# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

誰かに相談した時、困ったことを教えてください。②

意見	性別	年代（歳）
信じてもらえなかった。批判された。精神病扱いされた。	女性	45～49
私が暴れたことにされた。	女性	18～24
警察に行って助けを求めたが、実際に受けている虐待内容を嘘だと決めつけられた。親に感謝しろと言われた。話にならなかった。	女性	44～49
まだマシな方と言われ悲しくなった。子どもは親に頼るしか無いと分かった。	女性	25～29
話し合えばわかるよと言われて余計に苦しくなった。	女性	30～34
小2の頃に学校の先生に相談したところ「嘘をつくんじゃない」と返された。翌日クラスメイト達の前で私が嘘について親の悪口を言ったと先生が話したため、クラス内での私の信頼は落ち始めて嫌がらせなどのいじめを受けるようになった。何を話しても先生には嘘と断定されるようになり学校生活を送るのが難しくなった。また、この頃から「人に相談しても改善するどころか傷ついただけだし全部自分で解決するようにしよう」と思い、人に頼ることに強い抵抗感と不安感を抱いた。	女性	25～29
スクールカウンセラーに怒鳴られた。人を信頼すること、頼ることが余計に怖くなった。	女性	30～34
警察は来てくれても毎回話聞かずに帰るので無意味だった。	その他	25～29

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

なぜ、助けを求めなかったのですか？理由を教えてください。①

意見	性別	年代（歳）
親からどんな仕返しがあるのかと思ったら、怖くて助けは求められなかった。	女性	25～29
助けを求めるといことが分からなかった。	男性	30～34
子どものときは、虐待と分からなかった。	男性	35～39
これが普通と思っていた。	女性	55～59
虐待にあたる行為だと気づけなかった、それが当たり前だと思っていた。心が辛く助けを求められそうなスクールカウンセリングなどに行っても勇気が出ず何も話せなかった。	女性	40～44
助けを求めるといことではないと思っていた、「うちは甘いんだからね」という母の言葉からそう思っていた。	女性	35～39
母から叩かれることや怒鳴られることが普通のことだと思った。	女性	25～29
母も大変だと思った。母が私を滅茶苦茶にしてストレス発散になるなら良いと思った。どんな形でも母が関わってくれるなら良かった。母が悪者にされたくなかった。	女性	25～29
隠すべきことだと思った。置かれた状況を言語化できなかった、幼く泣くことしかできなかった	男性	40～44
肉親が父親しかいなかったら助けを求めれば父親が捕まるとい発想になっていた。	女性	18～24

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

なぜ、助けを求めなかったのですか？理由を教えてください。②

意見	性別	年代（歳）
物心ついた頃より人から嫌われやすく、助けを求めようとしたら余計状況を悪化させるだけだと思ったから。	女性	25～29
お母さんを守るため。また、当時は愛されてると思っていて、虐待だとは思わなかった。	男性	35～39
認めたくなかったから。家族崩壊すると思ってたから。自分の助けは意味の無いものだから。	女性	18～24
母親に何をされるか分からないという恐怖心と育ててくれている祖母に余計な心配はかけたくないという気持ち、そして、半ば諦めのようなものもあった。	その他	40～44
家庭とはこんなものだ、仲の良い家族はドラマの中だけだと思っていた。家庭内の問題を口外してはいけないと思いついていた。助けを求めるといふ思考がなく、また事実を打ち明ける相手もいなかった。	女性	40～44
当事者として助けを求めると進学など経済的な圧力をかけられることが目に見えていたため。	女性	18～24
母親が大好きで、責められたら可愛そうだと思ったから。また、自分の弱みを誰にも見せたくなかった。	女性	18～24
自分の存在や価値を粉々にされるような言葉と共に被害を受けたので自分が悪いと思っていました。	女性	45～49
他の家族は、これは躰だと言っていたため。地域、学校、役所に広く顔が効く祖母だったため、通報しても無駄だと感じていた。	男性	25～29
疑問を持たなかった。	男性	50～54

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

虐待を受けていた頃、どんな「虐待を受けているサイン」を発していましたか？①

意見	性別	年代（歳）
下肢への暴力により、授業中椅子に座るのが困難だった。泣き叫ぶ声も近隣に聞かれていたと思う。火傷を負って靴が履けない日もあり、スリッパで登校していた。	女性	45～49
不登校、家出、暴力、泣き叫ぶ、物を壊す、自傷行為、話さなくなる、家に居ないからと精神科の病院への入院を希望した。	女性	18～24
不登校、売春、自傷行為、万引き、家出。	女性	30～34
不眠、急に泣き出す、性的逸脱。	男性	18～24
体重がかなり軽かった。親の離婚後父方に引き取られてから小学生で毎月体重が落ちていた。	女性	40～44
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校(家から出られなくなった)</li> <li>・抜毛症(頭がはげたり眉毛やまつ毛を全部抜いてしまったり新たに生えてきた髪がトサカのようにになっていた)</li> <li>・わざと鼻血をだして血溜まりを作ったりしていた</li> <li>・自殺未遂</li> <li>・万引きや泥棒行為</li> </ul>	女性	30～34
秋になっても長袖で傷を隠していたつもりが、教師に声をかけられてバレました。	女性	35～39
母が出掛ける時に置いて行かれるのを嫌がった。「一緒に連れて行って」と頼んだ。	女性	50～54

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃）

虐待を受けていた頃、どんな「虐待を受けているサイン」を発していましたか？②

意見	性別	年代（歳）
幼児期は不衛生によるシグナル、幼稚園での親の行事不参加と一人登下校（園）、お弁当なし、連絡帳の放免、登園しない等。低学年では忘れ物（買ってもらえない・書いてもらえない・作ってもらえない）、食事を与えられない、不衛生等の他、遅くまで一人で公園にいる、年齢不相応な振る舞い（人を頼れない・信頼できない・過度にしっかりする・不安定な愛着）中学年では不適切で過度な正義感、高学年では死にたいと担任に話す等。中学では教師に直接被害を相談したり校内で服薬自殺を試み、テストをわざと白紙で出したり急激な学力低下や非行行為、及び、不登校。高校では非行、不登校、直接的な教師への相談、学費の未納等。	女性	45～49
笑顔が少ない、マイナス思考。	女性	35～39
自傷行為、不登校。	女性	35～39
うつ症状による集中力低下、睡眠障害、それにより学校の宿題ができない等。	男性	30～34
母の実家に泊まって、帰りに父が迎えにきた時帰りたくなくて奥の部屋に隠れた。	女性	35～39
腹痛、登校拒否、チック症、自慰行為。	女性	35～39
おなかが痛い、熱があるといって学校を休む、塾に行くといって家を出る、学校に行くために必要以上に早く家を出るなど。	女性	40～44
学校に行ったフリをして行かない。体育祭の朝練に来ないなど。	男性	25～29

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃/支援）

どのような支援先、支援策などがあれば、少しでも助けられたと思いますか？①

意見	性別	年代（歳）
カウンセリング。自分の発言を許される場所。	女性	30～34
話を聞いて信じてくれる。児相や里親に預けて、実親から離してくれる。カウンセリングで心理療法を受けさせてくれる。大切にされる。とにかく早く治療を受けたい、安全な環境で生きたかった。	女性	50～54
逃げ場、相談できるところが複数あったら、そしてそこを利用するのは当然の権利であるという理解。	女性	35～39
虐待がどれだけされた人が苦しむか、してる人は気付いてないからそこを徹底的にさばく法律があつて欲しかった。	女性	30～34
親戚や学校の先生が、虐待に気が付いて、児相に通報などをしてほしかった。児童養護施設等、社会的養護に保護して虐待家庭から離してほしかった。	女性	40～44
親であっても、意味なく、愛情だと一方的に体を触られることが批難されて欲しかった。 虐待だと分かって結局、金や世間の目を気にして権力で封殺されるので、それに歯向かう勇気や権力が私個人にあればよかった。	女性	18～24
難しいと思う。周りの大人がそういう社会を作ってた。大人が偉いって。	男性	40～44
自分は虐待を受けているのだという認識、安心して生活出来る環境(施設など)	女性	18～24
親との分離。虐待を受けていてもいなくても、遊びに行くようにして簡単に泊まれる宿泊施設。	女性	25～29

# 主な意見・自由記述抜粋（子どもの頃/支援）

どのような支援先、支援策などがあれば、少しでも助けられたと思いますか？②

意見	性別	年代（歳）
周囲の大人が気づき少しでも介入してくれたらよかった。	女性	30～34
自分に寄り添ってくれる大人がいればよかった、自分のことを知ろうとしてくれて愛してくれる大人。	女性	25～29
障害者のきょうだいに対する支援。	女性	35～39
学校、警察の介入。	女性	30～34
お金を稼げればと思っていた。子どもの意思で家以外の住居を選ぶのが普通になれば良い。	女性	30～34
児童相談所や警察が介入し、親の虐待の事実に向き合っ欲しかった。安全に暮らせる場所の確保や、トラウマ治療に特化した精神科医や心理職からのケア。	女性	35～39
心休まる、保健室のような場所がほしかった。私の様子がおかしいと気付いてくれる人がいたらよかった。	女性	40～44
誰かに養子にして欲しかった、家族が欲しかった。	女性	35～39
第三者が、動くこと。被害者に虐待と言う意識を持たせること。僕自身、第三者に言われるまで、父親かされてることが虐待だと思ってなかった。	男性	18～24
家庭、以外の生活できる環境があれば良かったなど。(例えば他の親族など)	女性	35～39



# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/精神疾患）

精神科等にて診断を受けた病気により、どのような症状に苦しい想いをしていますか（又は、していましたか）？①

意見	性別	年代（歳）
フラッシュバック、トラウマ、人格交代、疼痛、コミュニケーションが取りにくい、など。	その他	18～24
子育てが辛い。	女性	35～39
希死念慮が常にあることに苦しめられています。	男性	45～49
無価値感と自責感と希死念慮。	女性	18～24
距離感のおかしさや精神的に安定しないために周りに誰もいなくなり孤独だった。	女性	18～24
主治医に家庭環境のことをあまり話せないで、トラウマ治療を受けられず、統合失調症や発達障害の治療のみ受けています。医師に家庭環境や虐待も精神疾患の原因だと認めて欲しいけどなかなか上手く伝わりません。	その他	25～29
記憶がなくなる、すぐ怒ってしまう、異常な不安がある、死にたくなる、その他など。	女性	25～29
薬が合わず寝いってしまうと、勤務時間に遅刻が続きクビになる。	女性	40～44
他人を信じられない、何かするにも不安がつきまとう、呼ばれただけで怒られるのではと怖くなる、失敗をひどく恐れる、自分に関係ない事でも自分のせいだと自分を責める、心身の緊張が強い、どれだけ努力しても自分は頑張ってると思えない、取り柄がないと思いつく、自信が持てない、自分はダメな人間、自分は価値のない人間と思ってしまう。	その他	50～54



# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/精神疾患）

精神科等にて診断を受けた病気により、どのような症状に苦しい想いをしていますか（又は、していましたか）？②

意見	性別	年代（歳）
フラッシュバック 過呼吸、希死念慮、他人格出現、感情麻痺、不眠、他者への依存。 数年間、映像TV・音楽に触れられなくなった。 心への圧迫感があり、上手く表現出来ませんが、長く息を止める事がよくありました。	女性	50～54
解離症状があるので、覚えてない事がある。 PTSDの症状があり休職中である。	女性	40～44
過去では、いつも落ち込んでいて不安で眠れず何も手につかず希死念慮が強く食事を拒否したことがある。今現在では先ほどの症状は無くなったものの強迫性障害と自傷行為（スキンピッキング）と反芻思考に苦しんでいる。	女性	25～29
PTSDでのフラッシュバック、鬱病により働けない。	女性	18～24
落ち込み、自己肯定感が低く自己ネグレクト、トラウマ、コミュニケーション中の、フラッシュバック継母に、言われて嫌だったときのことをそのまま思い出し、何度も追体験する。	女性	45～49
母親に嫌がらせを受ける夢を何度も見た。泣きながら大声で止めてほしいや、バカにするなど怒鳴る夢も何度も見てしんどかった。 自己肯定感が低く、その場限りのセックスに逃げたこともある。	女性	55～59
フラッシュバック 自信欠如 自分は要らない人間だという思い込み。	女性	35～39
フラッシュバック、自分の意見が言えない（というか意見が脳内に存在しない）、結婚がうまくいかなかった、トップだった成績が最下位になった、外に出るのが怖い、常に誰かが私に殺意を抱いている。	女性	45～49

# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/病気以外）

病気以外で、虐待を受けていたことを要因として、どのようなことに困りましたか？①

意見	性別	年代（歳）
賃貸住宅の保証人がいないので、福祉を頼って、保証人不要の物件を利用した。就職時の保証人がいなかったため、無断で母の住所氏名を使用して乗り切った。実家からの経済的支援がないので、貯金ができず困窮した。結婚して子供が産まれたが、子供を預ける事が出来ないため、何事も夫婦二人で解決しないと行けないので、身体的負担が大きい。妻が息抜きする時間がない。	男性	35～39
就職時の身元保証書にサインしてくれる人がいない、結婚時に両家顔合わせや結婚式ができない。	女性	25～29
信頼していた先生・上司からレイプ被害に遭った。部屋に鍵をかけられるなどして、虐待を受けていた時の恐怖感が強く甦り、凍りついて抵抗できなかった。	その他	30～34
とにかく社会に出て働くことができず、何が普通かがわからなくて、結婚は安心して生活したくてしたから、愛や親密性がわからず孤独だった。生き方がわからなかった。人の顔色ばかり見ていた。	女性	50～54
義務教育期間中に学校からも家庭からも適切な教育を受けてこなかったため、就職の際に困難をきたしたり、勤務中に苦手な環境に陥りその状態が続くと、心身に負担がかかり不調になり退職してしまうため、仕事が長続きしない状態です。	女性	45～49
仕事をするときなどどうしても緊急連絡先などを登録しなければならず、やむを得ず、唯一最低限の連絡を取れる状態にしてる兄(虐待を受けていない長兄)を登録しています。 仕事以外の場面で必要な時は家族がいない旨伝えますが、理解されづらいです。	その他	35～39
親の希望以外の大学を受けさせて貰えなかった。	女性	40～44

# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/病気以外）

病気以外で、虐待を受けていたことを要因として、どのようなことに困りましたか？②

意見	性別	年代（歳）
大学へなんとか行ったものの、教科書代を捻出できず困った。	その他	35～39
住民票で、住所がバレるので普通の仕事につけなかった。	女性	35～39
帰る実家と頼れる親族がない、でも誰かに依存しないと精神的に生きていけない。	男性	35～39
親と暮らすことで病気が悪化するのに、病状が悪すぎてどこのグループホームも受け入れられずなかなか親元を離れられなかった。大学も地方大学を受けようとしたら猛反対されて、進学を諦めることになった(親は私を見えるところに置いておきたかった)。働ける状態ではないのに金銭面の支援がない、など。	女性	18～24
住む処がないので寮付きを探した結果、明らかな反社企業で更なる暴力を受け続けた。	男性	40～44
高校進学を全く薦められず、中卒のまま。出産し再度仕事や障害者雇用を探しても最低高卒以上ばかりで積んだ。きつい肉体労働しかない。	女性	35～39
認知に歪みがあり会話に違和感を感じられる時がある。	男性	25～29
自己肯定感が低くコミュニケーションが困難。	女性	30～34
子供を出産してから虐待だったと認識したため、子育てがとても苦しい。	その他	40～44

# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/二次的被害）

どのような二次的被害を受けましたか？①

意見	性別	年代（歳）
性的虐待があっても「我慢する」よう親から教育されていたため、他人からの被害を受けても逃げられない。性思考が歪んでいる相手から狙われやすい。	女性	40～44
知人からハラスメント（パワハラ、セクハラ、アルハラ）を受けフラッシュバックを起こした。	女性	25～29
産後子供へ保健師さんが見に来た際、私の虐待歴について詳しく迫られた。	男性	30～34
近所で噂が回り、話が肥大化してしまった。色眼鏡で見られることが怖くて、余計に誰のことも頼れなくなった。	女性	18～24
相談しようとした警察官に連れ込み宿に連れていかれた。今も警察信じられない。	女性	60～
外面のいい親のことを信じてもらえない。いつまでも過去の恨み言がしつこいなどと馬鹿にされる。	女性	35～39
浪人生だった私は予備校に通う際の交通費、受験料から入学金やら自分で賄わなければならず水商売に1度だけ手を出したことがありました。親に1円も持たされずに家から出て警察に相談した時に親が警察にそれを話、男性の刑事に「なんでそんな仕事したの？真面目にアルバイトして欲しいもの我慢すればする必要無かったんじゃないの？親が可哀想だ。お前が悪いんだ」と私の話も何も聞かずに一方的に決めつけられたこと。	女性	18～24
職場の同僚から、帰省しないことを伝えると親親不孝者！となじられた。その後もことあるごとに親の大切さを説いてきた。ネットに親について書き込んだ際コメントで、親と仲が良くないなんて人間性を疑うと言われた。	女性	30～34
仕事で自己愛性人格障害による被害を受けやすい。	女性	25～29

# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/二次的被害）

どのような二次的被害を受けましたか？②

意見	性別	年代（歳）
虐待をしていない父親から母親のことを相談しなかったのが悪いと言われた。 母親が蒸発したことを父親に口外するなと口止めされた。 性被害に合ったが同性親に相談できずに性被害が終わらず継続してしまった。 いじめがあったが母親に相談しても親身になってもらえず対処できなくて学校へ行き続けなければならなかった。	女性	40～44
元旦那からのDV。	女性	45～49
嫁の母親に虐待されてたんだから子供を産んだら同じようにするんじゃないかと言われた。	男性	40～44
カウンセラーから「最後は親を許さないといけない」と言われた。	女性	30～34
周囲の人に親のことを話しても変な目で見られる。「毒親」という言葉を軽く捉えられて傷ついた。	女性	25～29
宗教団体の人に相談をするというテイで迫られたので話したら、地域の宗教絡みの人全員に言い触らされた。母親がキレて八つ当たりしてきたり、宗教の人から祈りや活動が足りないと、叱られた。	女性	40～44
彼氏の父親から性的接触を受けた時に断れなかった。	女性	25～29
アルバイト時代に家出をして2度と家に帰らなかったのだが、アルバイト先の先輩に「家出なんて大袈裟で、普通の人はそのことしない」と言われた。	その他	25～29
母親が信者だった宗教の人達からの、執拗な勧誘、連絡。	女性	35～39

# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/相談）

誰かに相談した時、良かったことを教えてください。①

意見	性別	年代（歳）
打ち明けた時親身に寄り添ってくれた。精神科病棟に居場所と安心できる人ができた。主治医の指示でなんとか実家から出ることができた。	女性	18～24
逃げ出そうとしてよかったのだと確信を得た。	女性	45～49
作業所の方は話を聞いて考えてくれ、いくつか案も出してくれる。	男性	35～39
自分は自分だけのせいで今の状況に陥っているわけではなく、こういう生育環境であればだれだって困った状況になるというのが少しずつわかっていった。将来や過去ばかりではなくもう少し今を楽しんでもいいということがわかった。	女性	30～34
自分の親が間違っていると知った。	女性	35～39
辛かったね。と同情してもらえたり、たまに自分と似たような人に出会える。	女性	35～39
経済的DVと認められてシェルターに保護され、生活保護申請等の支援を受け親元から離れ、子どものオムツやミルク等を確保することができた。	女性	30～34
生育歴を整理し、自分の思考や行動のパターンを知ったり、修正したりして、正常な友人関係、夫婦関係、職場関係、親子関係などを目標に取り組んでいけている。実家と距離を置き、平穏に、楽な気持ちで過ごせている。	女性	35～39
住む場所ができた。存在を認めてくれた。生きてもいい？や、ここに居てもいい？という質問に「生きてもいい？じゃなくて生きなきゃいけないし、ここに居てもいいじゃなくてここに居てくれ」と抱きしめてくれた。	女性	18～24



# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/相談）

誰かに相談した時、良かったことを教えてください。②

意見	性別	年代（歳）
自分が受けていた行為の数々はとても恐ろしい、普通は有り得ない事である事、一人ではないと実感出来たこと。	女性	45～49
受け入れてくれる人達がいるんだ、と知ることができた。	女性	25～29
相談しないほうが良かったことがわかったぐらいです。	女性	30～34
自分がされていたことが虐待だと確信を持てたこと。	女性	30～34
相手と同じような経験があったため、未来を見れたようで救われた。	女性	18～24
精神的に楽になり、自分を守る行動を取れるようになった。自分が酷い育て方をされていたことを認識できた。	女性	35～39
カウンセリングを受け続けることで、過去と少しずつ向き合うことができるようになり、体調が改善してしている。	女性	25～29
逃げ場を作ってくれた（家においでなど）	女性	25～29
共感を持って耳を傾けてくれた。それは虐待です、と言ってくれた。	女性	50～54
対人関係の難しさは自分の情緒的発達が遅さや、虐待由来の部分もあることが分かった。自分のために時間と金銭を使えるようになった。宗教について、祖母の後継である必要がなくなった。家族と心理的な距離を開けることができた。一時的に一人暮らしをすることができた。解離性障害が軽快し、自分の感覚が分かるようになった。	男性	25～29

# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/相談）

誰かに相談した時、良くなかったことを教えてください。①

意見	性別	年代（歳）
お母さんがかわいそう 親を大事にしないと 仲直りできると良いねという言葉に傷ついた。	女性	35～39
その子の幸せそうな人生を妬んでしまった。	女性	18～24
信じていた親にぞんざいに扱われてたことに気づきショックを受けた。共依存状態だった親を自身が裏切ってるようで罪悪感、大事な親に対してだめなことをしていると強く責めてしまい死にたいと強く思った。親との関係が分かり、距離を置いたが兄弟に責められ精神的にしんどくなり早産になりかけた。	女性	30～34
親は基本的に子どものためにしてるんですよと言われて絶望した。	女性	45～49
親戚のおばさん。わたしが家を出たい、生活保護をもらうまで少しだけいさせて、と連絡しているのに、その返答をわたしに直接返さず、母や家族に言って、さらに状況が悪くなったし、傷ついた。	女性	35～39
性的関係を持つ可能性のある人以外は親身に相談に乗ってもらえないのだと気づき、孤独を感じました。	女性	35～39
親に対する不信感が芽生えた。また、怒りを自覚したことで、上手く関われなくなった。	女性	18～24
もっと甘えたい。	女性	35～39
被虐待者に対する知識・理解がなく、ろくな治療が受けられずに諦めた。お金と時間を無駄にした。	女性	25～29
一気に距離ができる。	女性	40～44



# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/相談）

誰かに相談した時、良くなかったことを教えてください。②

意見	性別	年代（歳）
アダルトチルドレンや愛着障害の傾向があるか、そこからどうやって共存、または適度な距離を取るか等、知りたい事は分からないままだった。	その他	30～34
私の彼らに対する依存度が高まってしまって距離感がわからなくなってしまったこと。	女性	18～24
固定観念から男性が性の被害を受けることがなかなか理解されず、良好な人間関係の構築にひびが入ったこと。	男性	50～54
大事なことなのに、言わないでいたことについて、責められた。結婚する前に伝えるべきだったが、こわくて言えなかった。	女性	40～44
男性だから自殺できると性別の違いで女性の方から裁かれて話すのが怖くなった。もっと死にたくなって生きる罪悪感が増してしばらく食欲が無くなり喉を通らなくなった。	その他	40～44
傷の舐め合いで虚しかった。もっと酷い虐待をされていた人間にマウントを取られて最悪だった。	女性	18～24
自分のダメなところが相手に伝わる。	女性	18～24
過去は変わらない。	女性	25～29
結局、当事者しかわからない辛さを実感し絶望するだけ。	女性	25～29
話すだけでも毎回しんどい。虐待知らない人にはなかなか信じてもらえない。	女性	45～49

# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/相談）

誰かに相談した時、良くなかったことを教えてください。②

意見	性別	年代（歳）
アダルトチルドレンや愛着障害の傾向があるか、そこからどうやって共存、または適度な距離を取るか等、知りたい事は分からないままだった。	その他	30～34
私の彼らに対する依存度が高まってしまって距離感がわからなくなってしまったこと。	女性	18～24
固定観念から男性が性の被害を受けることがなかなか理解されず、良好な人間関係の構築にひびが入ったこと。	男性	50～54
大事なことなのに、言わないでいたことについて、責められた。結婚する前に伝えるべきだったが、こわくて言えなかった。	女性	40～44
男性だから自殺できると性別の違いで女性の方から裁かれて話すのが怖くなった。もっと死にたくなって生きる罪悪感が増してしばらく食欲が無くなり喉を通らなくなった。	その他	40～44
傷の舐め合いで虚しかった。もっと酷い虐待をされていた人間にマウントを取られて最悪だった。	女性	18～24
自分のダメなところが相手に伝わる。	女性	18～24
過去は変わらない。	女性	25～29
結局、当事者しかわからない辛さを実感し絶望するだけ。	女性	25～29
話すだけでも毎回しんどい。虐待知らない人にはなかなか信じてもらえない。	女性	45～49

# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/支援）

どのような支援先、支援策などがあれば、少しでも助けられると思いますか？①

意見	性別	年代（歳）
カウンセリングなどの治療を保険適用。	女性	25～29
ウチの親は飛行機の距離まで追ってくるので、海外や離島に転居できるような支援があったら嬉しいです。	女性	30～34
安心してまず繋がれるところ。	女性	60～
親に知られず気軽に相談でき、補助金や奨学金、親と離れて生きていくことの出来る支援や、その方法を教えてくれる窓口。	女性	18～24
自分が経験したことや、その後の精神疾患が虐待によるものであると気づけるような社会的な発信があること。虐待サバイバーであると自覚するまでに、その後の精神疾患や記憶の欠如が何によるものなのか理解できず、しんどかった。	その他	18～24
親の年収に関わらない生活保護/奨学金などの援助 ト라우マ治療を行える医師や心理士が増えること。	女性	25～29
安楽死	男性	30～34
虐待サバイバーの人達の会や、立ち直るためのワークや本の紹介、とにかく1人じゃないって事を感じるだけでも違うかと思う。	女性	25～29
体調を崩している方が多いと思うので、そこのケアがあれば良いと思うが、誰かに頼る事が苦手な方が多いと思うのでシステムがあっても知らないと思う。	男性	40～44

# 主な意見・自由記述抜粋（成人後/支援）

どのような支援先、支援策などがあれば、少しでも助けられると思いますか？②

意見	性別	年代（歳）
孤立しないような仕組み、匿名で支援を受けられる場所、カウンセリングに繋がりがやすい仕組み。	女性	18～24
相手が身内であっても子どもの権利が守られる法律や医療、教育が社会に浸透していること。	女性	25～29
虐待の後遺症についての啓発があったら、もっと早くトラウマ治療に辿り着けたかなと思う。本屋に虐待やトラウマケアや受けられる社会保障についての特集を組んだ大きなコーナーがあったり。知識がないことには助けを求めるところもできないから。	女性	35～39
血縁に縛られない制度。	女性	25～29
自分の体験した事を人に話す機会。	女性	30～34
心療内科の受診費補助など。	女性	35～39
トラウマから回復するためのプログラムが受けられると嬉しい。親元を離れても虐待の後遺症から回復するには時間がかかるため、社会に出てからも苦労をすることになってしまう。	女性	25～29
お金がなくても衣食住がちゃんとしていたり、心理士がいること。世帯分離や定住先をスムーズに決めれる場所。	その他	18～24
様々な書類の手続きや、両親との関係を少しでも多く切る方法、自立する方法が分かれば助かる。	女性	18～24
虐待サバイバーが現況を共有する場。	女性	40～44

# 主な意見・自由記述抜粋（社会への周知）

虐待を受けていた子どもの頃、又は、成人後の生き辛さなど、社会に知ってもらいたいことを教えてください。①

意見	性別	年代（歳）
他人からどうみられているのか不安です。普通にしていなければいけないと、普通を装う事が苦しい。	女性	35～39
人生で初めて築く人間関係は親子関係で、それが不平等で理不尽なものであれば一生の傷を残すし、他者との関係構築はとても困難です。 他者でなく、自分が親になり血の繋がった子どもを持った時、当時の情景が再現されて更に辛い思いをします。 トラウマはその人の一生を左右するものであること。	女性	35～39
30代になった今も虐待されていた当時のことに悩まされ苦しみ続けています。 周りに相談しても過去のことです。いつまで悩んでるの？と言われ傷つき、周りの幼少期の話、楽しい学生時代の話、家族の話の話を聞くたびに相手の話に合わせて自分の気持ちに嘘をつきながら話すことも辛いです。大人でも虐待されていた時のことを昨日のことのように思い出して辛い中生きてることを知ってほしい。 大人になると支援してくれる所や相談できる所もほとんどないので気軽に行ける居場所がほしい。	男性	45～49
30代になった今も虐待されていた当時のことに悩まされ苦しみ続けています。 周りに相談しても過去のことです。いつまで悩んでるの？と言われ傷つき、周りの幼少期の話、楽しい学生時代の話、家族の話の話を聞くたびに相手の話に合わせて自分の気持ちに嘘をつきながら話すことも辛いです。大人でも虐待されていた時のことを昨日のことのように思い出して辛い中生きてることを知ってほしい。 大人になると支援してくれる所や相談できる所もほとんどないので気軽に行ける居場所がほしい。	女性	30～34
社会的養護・非社会的養護で線引きしないで多様な虐待サバイバーの声を聞いたり代弁してくれる仕組み作りを行って欲しいです。今、児童福祉の分野では、社会的養護や一時保護を経験した子ども・若者を中心に、当事者活動や周囲の大人が代弁してくれる仕組み作りが行われています。でも、私のように一時保護にすら至らなかった虐待サバイバーの声は「無かったもの」として扱われてるんじゃないのかと危惧しています。社会的養護・非社会的養護や虐待の程度に関わらず、児童虐待を受け続けると、大人になってもその後遺症で苦しむことになります。だから、社会的養護・非社会的養護関係なく色々な虐待サバイバーの声を聞いてください。そして、非社会的養護や一時保護に至らなかった虐待サバイバーにも発言権をください。	その他	25～29

# 主な意見・自由記述抜粋（社会への周知）

虐待を受けていた子どもの頃、又は、成人後の生き辛さなど、社会に知ってもらいたいことを教えて下さい。②

意見	性別	年代（歳）
虐待というとき、経済的に困っていない家庭や保護されていない人も実は多いんだ、ということ世間は知らないし、少ないと思っている。だから見つけてもらえないし、支援にもほとんどつながらない。理解もないから孤独だし、孤立してしまう。世間のみなさんに、もっとこういう家庭の苦しみ、気持ちを知っていただきたいです。	女性	25～29
信教の自由が個人にある事を広めたい、「そうされるのはお前が悪いからだ」と更に追い詰める言い方は避けてほしい、「家庭内の事にはなにも言えない」と切り捨てないでほしい。	女性	50～54
「子供の頃の出来事」、「過去は過去」、「自分で乗り越えられる筈」 社会からのこのような言葉は、どれほど当事者を深く傷つけるか。これらは、励ましの言葉でも何でもない事を知って頂きたいです。	女性	55～59
親に植え付けられた価値観の変換には適切なカウンセリングが必要だと思います。 心療内科で薬もらうだけでは、とてもじゃ無いけど治らない！ 知らないうちに形成された、思い込みや信念を変えざる事では癒される事はないのではないかと思います。	女性	40～44
1日のほとんどを過ごす教育現場から子供のSOSを察知する事が出来れば、救われる子供たちも増えていくと考えられます。その為には「分かりやすい虐待（服が汚い・傷がある・痩せている）」に加えて「問題行動」にも焦点を当ててほしいと思います。	女性	25～29
女兒がいるシングル家庭は再婚に気を付けて欲しいです。	女性	18～24
受けているときだけでなく、フラッシュバックに苦しみ長く続くし、いつ起きるかわからないから、努力で防ぎようがないこと、その場しのぎの励ましや気休めは効果はがないと知って、話を聞き、受け止めてほしい。寄り添ってほしい。	女性	45～49



# 主な意見・自由記述抜粋（社会への周知）

虐待を受けていた子どもの頃、又は、成人後の生き辛さなど、社会に知ってもらいたいことを教えて下さい。③

意見	性別	年代（歳）
子どもは親の持ち物ではない。	女性	60～
虐待されてることを笑いながらでしかSOSを出せない子がいることを知って欲しい。突然トラウマに支配されておかしくなってしまう事を軽蔑されたくない。	女性	35～39
心の傷は一生です。傷は癒えることがあるかもしれませんが、大きく醜い傷跡は残ります…つまり、虐待を受けなかった頃の自分にはどう頑張っても戻れないんです。生き地獄です。誰か私を殺してくださいと言いたくなる時もあります。それでも生きていかなきゃならない辛さを少しでも分かってもらいたいです。	女性	40～44
虐待には、後遺症があること。他人事だと、思わないでほしいこと。虐待サバイバーが、いること。	女性	35～39
子どもだったのに、本気で死にたくなるほど家族に追い詰められたこと。助けてくれる大人がいなくて行き詰まっていたこと。親から離れた今もトラウマに囚われていること。	女性	18～24
自己肯定感が低すぎてどうにもならない。すぐ死にたくなる。	女性	30～34
性被害は50歳過ぎても苦しみます。時効を無くして下さい。	女性	55～59
性的虐待も心理的虐待は気づきにくい。親が子どもをバカにしたりすることも虐待。その子の未来に大きな影響がある。もし目の前で親が子どもに「お前バカかよ」って言ってるのあったら止めて。子どもだって辛い悲しいあるから。	男性	18～24
虐待は後遺症があること。他人事で終わらせてほしくないこと。発達障がいと同じ症状が出ること。愛着障がいになることや、愛着障がいそのものについて、もっとわかってほしいこと。	女性	35～39